

道徳科学習指導案

- 1 主題名 やさしいきもちで
- 2 教材名 「くりのみ」
- 3 主題構成表

■内容項目 B 親切、思いやり

- (低学年) (6) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。
 (中学年) (6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。
 (高学年) (7) 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。
 (中学校) (6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

■価値の分析

相手に対して思いやりの心をもって接することは、よりよい人間関係を築くために大切なことである。人は本来、困っている人に対して親切にしたいという気持ちをもっているものである。しかし、自分のことで精一杯になり、周りのことに目を向けられる余裕がなかったり、自分の損得を考えてしまったりして、行動に移せないことがある。

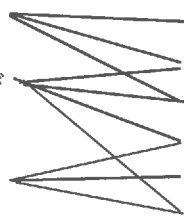
1年生の子供たちは、まず身近な人に優しい心で接し、親切にすることの心地良さを感じ取らせていきたい。そして、優しい心をもって親切にすると、自分も相手も温かい気持ちになることに気付くようにしていきたい。

■児童理解 【行為】

A: 誰にでも親切にすることができる。

B: 相手や周りに合わせて、親切な行動がとれたり、とれなかったりする。

C: あまり親切にすることができない。



ア: 相手のことを思って親切にすると気持ちがいいな。

イ: 困っている人がいたら、親切にしよう。

ウ: 親切にすると、褒められるからうれしいな。

エ: 親切にすることは大切だけど、恥ずかしいな。

オ: 自分のことで精一杯で人のことまで考えられない。

カ: 誰かがやるからいいや。

【意識】

【主な意識と要因】

■教材について

寒い北風の吹くある日、きつねとうさぎは食べ物を探していたが、きつねは見つけたどんぐりを隠して、「なんにもなくて、はらべこです。」とうさぎに嘘をつく。うさぎは、「きつねさん、2つ見つけたから1つどうぞ。」とくりを差し出す。そんなうさぎの優しさに触れ、きつねはぼたりぼたりと涙を落とすという内容である。うさぎの友達を思う優しさに触れ、涙を流すきつねの気持ちを考えさせることにより、温かい心で接し、親切にしていくことの大切さに気付かせたい。

■ねらい

温かく親切にされることで、うれしい気持ちになることに気付き、身近な人に親切にしようとする心情を育てる。

■展開の構想

人間理解の発問では、やっと見つけたどんぐりを自分のものにしておきたいきつねの気持ちに共感させ、困っているうさぎを助きたい気持ちはあるものの、自分のものにしておきたいという多様な気持ちを引き出し、自分の一番強い気持ちに気付かせる。

価値理解の発問では、うさぎの思いやりの深さに感動し、独り占めしたことを反省するきつねの心の変化に気付かせ、うさぎのように相手のことを考えた行動をしていこうという気持ちをもてるようにする。

自己を見つめる発問では、周りの人にやさしくしたことを見つめる。

■基本発問(◎価値理解の発問)

○たくさん見つけたどんぐりを、どうしてかくしたのでしょうか。

◎うさぎに「1つさしあげましょう。」と言われた時、涙を流したきつねはうさぎのことをどう思ったでしょう。

○うさぎのように、周りの人に優しくできたことにどんなことがありますか。

4 本時のねらい

温かく親切にされることで、うれしい気持ちになることに気付き、身近な人に親切にしようとする心情を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と内容	教師の指導・援助と留意点
気 付 く	1 登場人物や場面の様子を押さえる。 ○冬の雪山の写真を見て、どんな話なのか興味・関心をもつ。 ・冬の雪山はとても寒くて、雪で覆われているため食べ物がほとんど見つけられないよ。 ・きつねやうさぎはお腹がすいているんだね。	・冬になると、森の中には動物の食べ物ほとんどなくなってしまうこと、2匹ともお腹が減ってきていることを押さえ、場面の状況が理解できるようにする。
深 め る	2 教材「くりのみ」を読んで話し合う。 ・(きつねがどんぐりを独り占めしたところ) ひとりじめしてはいけないよ。 ・(きつねが何もないうそをついたところ) だめだよ。うそをついては。 ・(きつねは最初は悪かったけれど、ちゃんと反省して涙を流しているところ) はんせいしていいね。 (1) たくさん見つけたどんぐりを、どうしてかくしたのでしょうか。 ・全部ばくの物だ。 ・後から食べれるようにとっておこう。 ・誰かに見つからないようにしないと。 ・うさぎさんには内緒にしておこう。 【中心発問】 (2) うさぎに「1つさしあげましょう。」と言われた時、涙を流したきつねはうさぎのことをどう思ったでしょう。 ・ありがとう。うさぎさんはやさしいな。 ・2つしかないのに分けてくれるんだ。 ・うさぎさんはちゃんと分けてくれてすごいな。 ・自分は全部独り占めしてごめんなさい。 ・自分のことだけじゃなくて、相手のことも考えたいな。 ・自分もうさぎさんのようにやさしい人になりたいな。 じぶんのことだけではなく、あいてのこともかんがえて やさしくする。	・範読中に「きつね」のしたことについて感じたことをつぶやくように、事前に児童につぶやき方を話す。つぶやきを生かして、基本発問や中心発問へつなげられるようにする。 【役割演技】全体→指名 ・役割演技を取り入れ、どんぐりを独り占めしたかったきつねの多様な気持ちを引き出し、自分の一番強い気持ちに気付けるようにする。 「人間理解での考え、議論する」 意図的指名 B、C→A 【役割演技】全員→指名 ・役割演技を通して、うさぎの親切な行為を受けて、それまでの自分の行動を、仲間の多様な感じ方や考え方を通して振り返る。その際、仲間の考えと、自分の考えを比べながら聞くように促す。 「価値理解における考え、議論する」 意図的指名 B、C→A ・教師がうさぎ、子どもはきつねに位置付け実感をもってねらいに迫るようにする。子どもとのやり取りが簡単に終わらないよう、教師が問いかけを工夫していく。 【補助発問】 ・うさぎに優しくしてもらったきつねの気持ちを問いかけ、うさぎのように相手のことを考えた行動をしていこうという気持ちがもてるようにする。
見 つ め る	3 本時の価値に照らして、自分を見つめる。 ○うさぎのように、周りの人に優しくできたことにどんなことがありますか。 ・班の子の給食がこぼれた時、一緒に床を拭いてあげたよ。 ・友達の係の仕事が大変そうだったから手伝ってあげたよ。 ・授業中困っている友達に、自分から「大丈夫、教えようか。」と声を掛けることができたよ。 4 教師の話聞く。	【見つめタイム】 ・様々な場面の絵を提示し、自分の様子を思い出すためのヒントとする。 ・かがやきノートへの記入はせず、全体交流の場で話せるようにする。 意図的指名 A

道徳科学習指導案

- 1 主題名 みんなのために
- 2 教材名 ぴかぴかがかり
- 3 主題構成表

■内容項目 C 勤労、公共の精神

- (低学年) (12) 働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。
 (中学年) (13) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。
 (高学年) (14) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。
 (中学校) C 社会参画、公共の精神 勤労
 (12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。
 (13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。

■価値の分析

働くということは、単に自分が生活するだけでなく、社会の一員として社会的責任を果たすという重要な意味をもっている。自分の仕事に誇りと喜びを見出し、生きがいをもって取り組むことで、社会的に自己実現を果たすことができるのである。自分の働きが認められることの積み重ねが、児童を自己肯定感や自尊感情をもった社会人へと成長させていく。自分の仕事に誇りや喜びをもち、一人一人が働くことのよさや大切さを知ること、みんなのために働こうという意欲をもち、社会に対する奉仕や公共の役に立つ喜びをも味わうことができるようになるだろう。2年生の段階では、自分の仕事も人の役に立っていることを自覚し、周りの人のために働こうとする心情を育みたい。

■児童理解

【行為】

A: みんなのために働くことができる。

B: 場合によってみんなのために働けないことがある。

C: 働けないことがよくある。

【意識】

ア: みんなの役に立つのは気持ちがいいな。

イ: 働くことが楽しい。

ウ: 自分の仕事だからしっかりやらなくては。

エ: ほめられるから、叱られるから、やろう。

オ: 誰かがやってくれるだろう。

カ: 面倒くさい。他にやりたいことがある。

キ: 少しぐらいやらなくても。

【主な意識と要因】

■教材について

みんなで使う流し掃除をする「ぴかぴかがかり」になったわたしとたまきさん。初めは楽しく、毎日きれいに磨いていたが、水がとても冷たい季節となりだんだんいやになって、水で流すだけにしてしまう。ある日の昼休みに流しの前を通りかかった二人は、黒ずんで流れの悪くなった流しを見て掃除をしっかりとしなかったことを反省し、掃除を始める。二人が掃除した流しを見て、1年生が「きれいだと気持ちがいい」と言っているのを聞いて、わたしは嬉しくなった。自分が行った仕事 みんなの役に立ち、みんなの喜びや気持ちよさにつながっていることに気づき、自分の仕事にやりがいや誇りをもって取り組もうとする心情を育てていきたい。

■ねらい

働くことは、自分も周りもいい気持ちになることにつながることに気づき、みんなのために働こうとする心情を育てる。

■展開の構想

人間理解の発問では、流しを水だけ流して終わってしまうわたしの気持ちを追求する中で、「水の冷たさがつらい。」「まあ、このくらいでいいか。」「と手を抜いてしまう多様な考え方や感じ方を引き出し、自分の強い気持ちに気付かせる。

価値理解の発問では、わたしが流しをぴかぴかに磨いた気持ちを追求する中で、働くことの意義をとらえさせる。また、1年生の話すのを聞いて、どんなことを話したかを問い、役割演技を通して、自分の仕事周りの人の役に立っている喜びや、やりきる達成感といった、働くことのよさを感じさせる。

自己を見つめる発問では、働いてみんなの役に立ったことを見つめる。

■基本発問(◎中心発問)

○わたしは、流しは、水を流すだけにしたのはどうしてかな。

○水を流すだけにしていたのに、どうして、流しをたわしでぴかぴかに磨いたのでしょうか。

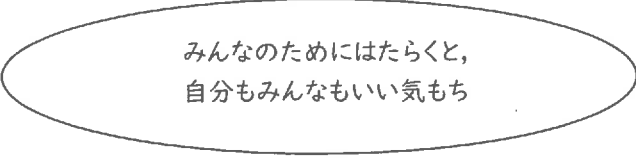
◎1年生たちが「気持ちがいいね。」と話しているのを聞いて、わたしたちは、どんな話をしたでしょう。

○みんなのためにがんばって働いてよかったと思えたことにどんなことがありますか。

4 本時のねらい

働くことは、自分も周りもいい気持ちになることに気づき、みんなのために働こうとする心情を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と内容	教師の指導・援助と留意点
気 付 く	1 登場人物や場面の様子を押さえる。 ○どんな仲間が出てくるか、よく考えて聞こう。 ・登場人物は、わたしとたまきさん。 ・二人は、2学期になって、教室や廊下にあるみんなで使うものをぴかぴかにする「ぴかぴかがかり」になった。	・ぴかぴかがかりになったわたしとたまきさんが、流しを掃除している場面であること、わたしに着目して考えていくことを確認する。
深 め る	2 教材「ぴかぴかがかり」を読んで話し合う。 ・(流しは水を流すだけ)流さないと汚くなるよ。 ・(流しをぴかぴかにした)きれいにしていね。気持ちがよくなるよ。みんなもうれしいよ。 (1) わたしは、流しは、水を流すだけにしたのはどうしてかな。 ・たまきさんも言ってるし、流すだけでいいかな。 ・水が冷たいから、しっかりみがくのは嫌だな。 ・毎日やって、もう飽きたな。 ・なんで私たちがやらなくちゃいけないの。 ・こんなに毎日みがかなくてもいいんじゃないの。 ・冷たくて嫌だけど、流すだけにしていいいのかな。 (2) 水を流すだけにしていたのに、どうして、流しをたわしてぴかぴかに磨いたのでしょうか。 ・流しが汚いと気持ち悪いな。 ・やっぱりきちんと磨かないと汚くなってしまう。 ・ぴかぴか係の仕事を怠けて、いけなかったな。 ・水が冷たいけど、がんばらないといけいないんだ。 【中心発問】 (3) 1年生たちが「気持ちがいいね。」と話しているのを聞いて、わたしたちは、どんな話をしただろう。 ・1年生が喜んでくれて嬉しいね。 ・やっぱりきれいにすると気持ちがいいね。 ・がんばってきれいにしてよかったね。 ・水が冷たいけど、これからは毎日がんばろうね。 	・わたしのしたこと、「残念だな」というところ(人間理解の場面)と、「いいな」(価値理解の場面)を見つけられるよう声を掛ける。 【役割演技】 全員→指名 ・仕事の手をつい抜いてしまいたくなる多様な考え方や感じ方を引き出し、自分の強い気持ちに気付かせる。 意図的指名 B、C→A ・自分の中でどの気持ちが一番近いのかを確認し、それぞれの意見と自分の意見を比較し、どのように感じたか、今の自分の考えを述べるように助言する。 「人間理解での考え、議論する」 【役割演技】 ・教師がたまきさんになって、会話を続け、「うれしい」理由や、今後への意欲などが引き出せるようにする。 【補助発問】 ○「水の冷たさは変わらないよ。それでもいいの?」と問うことで、手を抜いてしまう楽さよりも、しっかりと仕事を果たすことの大切さや、それがみんなが気持ちのよい生活につながることに気付かせる。 意図的指名 B、C→A ・辛さや大変さがあっても、みんなのためにがんばって働くことの大切さを語る学級の仲間の考えを聞いて、自分の今の考えと比べて話すように助言する。 「価値理解における考え、議論する」
見 つ め る	3 本時の価値に照らして、自分を見つめる。 ○みんなのためにがんばって働いてよかったと思えたことにどんなことがありますか。 ・忙しいけど配膳台の準備を早くできると、みんながゆっくり食べる時間ができるから、がんばってよかったなあとと思う。 ・係じゃないけど黒板消しを手伝ったよ。係の子や先生がありがどうって言うてくれて、うれしかったよ。 4 教師の話聞く。	【見つけタイム】 ・係活動やボランティア活動など、様々な場面の絵を提示して思い出すヒントにし、みんなのためにがんばった時に、どんな気持ちになったかを振り返ることができるようにする。かがやきノートを活用する。 意図的指名 A

道徳科学習指導案

1 主題名 友だちと助け合って

2 教材名 「目の前は青空」

3 主題構成表

I

内容項目 B 友情、信頼

(低学年) (9) 友達と仲よくし、助け合うこと。

(中学年) (9) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

(高学年) (10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。

(中学校) (8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

価値の分析

児童にとって、学校生活においては、友達は重要な存在である。「友達と遊べるから」「友達と〇〇できるから」ということが、学校へ来ることの1つの喜びになっている。

友達関係は、共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。よりよい友達関係を築くには、互いに認め合い、学習活動や生活のさまざまな場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼することの大切さについて、気付くことが必要である。また、性別にとらわれることなく、人として互いに理解しながら、人間関係を築いていくことが重要であることも忘れてはならない。

児童理解 【行為】

【意識】

A: いつでも助けることができる。

B: 助けることができないときもある。

C: 助けようとしな。

ア: 仲間と助け合うことは大切だから。
イ: 私も助けられることがあるから。
ウ: 褒められたいから。
エ: 仲がよいから、よくないから。
オ: 私がやらなくても誰かがやってくれるから。
カ: 自分さえよければそれでいいから。

【主な意識と要因】

教材について

本教材は、遠足という学校行事での出来事を描いた物語である。主人公の信二たちは、遠足で丘を登っているが、足が遅い太一の前で列が途切れることが気になって仕方がない。信二と同じようにいらしためぐみが太一に声をかけるが、ちょうどその時めぐみが転んでしまう。太一はめぐみにばんそうこうを渡して手当する。そんな2人を見ていた信二は、太一のリュックを持つと言い、クラスの間みんなも太一を助ける。信二と太一の前には青空が広がっていた。

信二が太一を助ける場面を通して、友達と助け合うことのよさや助け合った時の気持ちよさを感じ、友達と助け合うことでよりよい関係を築いていけることに気付かせたい。

ねらい

友達と助け合うことのよさや助け合った時の気持ちのよさに気付き、友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする態度を育てる。

展開の構想

人間理解の発問では、歩くのが遅く集団から外れそうになる太一に対して心ない言葉をかけてしまう信二の気持ちを考えることで、多様な考え方や感じ方を引き出し、仲間と比べる中で、自分の強い気持ちに気付かせる。

価値理解の発問では、坂道を登る太一をだまっていられなくなり、リュックを持ったときの気持ちを追求することで、困っている友達を助けることの意義をとらえさせる。また、信二と太一の双方向の気持ちを追求する中で、友達と助け合うことで、よりよい関係になれることを実感できるようにする。

自己を見つめる発問では、友達同士で助け合ったことを見つめる。

基本発問(◎中心発問)

○「おい、太一くん。早く早く!」と急かした信二は、太一にどんなことを言いたいのだろう。

◎信二は、遅い太一にいらしているのに、どうしてリュックを持ってあげるよと言ったのだろう。

○頂上に着いたとき、信二と太一はどんなことを話すだろう。

○友達を助けたり、友達に助けられたりしたこと、そのときの気持ちを振り返りましょう。

4 本時のねらい

友達と助け合うことのよさや助け合った時の気持ちのよさに気付き、友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする態度を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と内容	教師の指導・援助と留意点
気 付 く	1 価値に関わる自分の考え方や感じ方を意識する。 ○友達と助け合う活動にはどんなものがありますか。 ・大縄大会、授業中の教え合い、係活動	・友達と助け合った経験を振り返ることで、見つめタイムに思い出せるようにする。 ・自分と、友達一人との関わりを思い出せるように助言する。
深 め る	2 教材「目の前は青空」を読んで話し合う。 ○信二の言葉や行動の中で付箋を貼った箇所を交流する。 ・太一に、「早く早く!」と言うところが残念だなと思った。 ・信二が、太一のリュックを持ってあげるところがすてきだなと思った。 (1)「おおい、太一くん。早く早く!」と急かした信二は、太一にどんなことを言いたいのだろう。 ・早くしてよ。 ・太一のせいで進まない。迷惑だ。 ・全然進まなくて楽しくない。 ・もっとがんばって歩いてよ。 【中心発問】 (2) 信二は、遅い太一にいらいらしているのに、どうしてリュックを持ってあげると言ったのだろう。 ・太一がつらそうだから。 ・みんなでのぼりたいから。 ・こまっている太一を助けてあげたいから。 ・太一はつらくてもめぐみを助けていて、自分も太一のように友達を助けたいと思ったから。 (3) 頂上に着いたとき、信二と太一はどんなことを話すだろう。 T: さっきはリュックを持ってきてありがとう。どうして助けてくれたの? C: 大変そうにしていたから。 T: でも、はじめは歩くのが遅くていらいらしていたよね。 C: いらいらしてしまったけれど、太一みたいに友達を助けたいと思ったよ。はじめは自分のことだけを考えて、助けてあげられなくてごめんね。 友達の気持ちを考えて助けると、 お互いえがおになれる。	・信二と太一が友達同士であることを押さえる。 ・教材の範読を聞きながら、信二が太一にしたことで残念なところとすてきなことについて付箋を貼る。 青(人間理解)…残念だな 赤(価値理解)…すてきだな ・集団から外れそうになり、歩くのが遅い太一に対して、自分の気持ちを優先させて心ない言葉をかけてしまう信二の多様な気持ちを引き出し、仲間と比べる中で、自分の強い気持ちに気付かせる。 ・仲間の意見と自分の意見を比較し、どのように感じたか、今の自分の考えを述べるように助言する。 「人間理解での考え、議論する」 【補助発問】 ○めぐみがけがした時の太一の様子を確認し、「めぐみを助ける太一を見て、信二はどう思っただろう。」と聞くことで、仲間と一緒に登ることを大切にしている太一の姿を見て、信二も太一を助けたいと思ったことに気付けるようにする。 ・「自分も太一のように友達を助けたいと思ったから」という発言を取り上げ、仲間の考えと自分の今の考えを比較して話すことができるように助言する。 「価値理解における考え、議論する」 【役割演技】 ○頂上についた信二(児童)と太一(教師)の役割演技を行い、友達同士が助け合うとよい気持ちになれることを感得させる。 ・役割演技を見ていてどう感じたかを児童に問うことで、友達と助け合うことで自分も相手もよい気持ちになれることや、助け合う前と比べて、友達とよりよい関係になれることを確認する。
見 つ め る	3 本時の価値に照らして、自分を見つめる。 ○友達を助けたり、友達に助けられたりしたことと、そのときの気持ちを振り返りましょう。 ・大なわ大会で、とぶことが苦手だったけれど、〇〇さんに押しってもらってとべるようになった。助けてもらってうれしい気持ちになった。 4 教師の話聞く。	【見つめタイム】 ・学校生活を振り返り、自分と友達一人との具体的な場面での関わりについてかがやきノートに記述できるように助言する。 意図的指名 A

道徳科学習指導案

- 1 主題名 家族のために
- 2 教材名 「祖母のりんご」
- 3 主題構成表

■内容項目 C(15) 家族愛、家庭生活の充実

(低学年) C(13) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知ること。
 (中学年) C(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。
 (高学年) C(15) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。
 (中学校) C(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。

■価値の分析

何世代にもわたって生命と生活をつないできた家族、日々の生活の中で喜びや苦しみを共にしてきた家族には、目には見えないつながりがある。そのつながりは目には見えないため、日々生活を共にするうちに、家族一人一人が存在することの価値や、家族から受けた愛情の自覚が薄れてしまう。その自覚が薄れていくと、家族で支え合おうとする気持ちまで薄れていくこともある。

このことから、家族が自分の成長を心から願い、愛情深く育ててくれたことや家族というつながりに守られて生きてきたことを自覚することで、自分自身もそのつながりの中に入り、進んで役に立つことをしようとする意欲につながっていく。

■児童理解 【行為】

A: 家族のために、自分から進んで役立つことをしている。

B: 家族から頼まれれば手伝う。

C: 家族に頼まれても手伝わない。

【意識】

A: 家族の一員として、家族が幸せに生活するために役に立ちたい。

I: 家族が喜んでくれると自分もうれしい。

U: 家族から褒められるとうれしい。

E: やらないと叱られるから。

O: 自分がやらなくても、誰かやってくれる。

K: 面倒だからやりたくない。

K: 私の仕事ではない。お母さんがやればいい。

【主な意識と要因】

■教材について

朝子は、認知症を患う祖母にいらいを募らせ、ついには非難をする言葉を言って詰め寄ってしまう。その時、父親から祖母に自分のことは忘れられてしまっても、家族として大切にしたいという思いを伝えられ、父親の祖母に対する深い思いを知る。後日、朝子は熱を出し、部屋で休んでいると、祖母からあたたかい言葉をかけられ、頭をなでてもらう。これまで愛情を込めて育ててくれた祖母の姿を思い出し、今度は自分が祖母の助けとなれるように支えていこうと決意する。

朝子が父親の祖母に対する深い思いを知った時と、幼いころから祖母が自分に向けて与えてくれた愛情を想起した時の心情の変化から、本時のねらいに迫りたい。

■ねらい

家族は自分の成長を願い、愛情深く育ててくれる感謝すべき存在であることに気付き、家族の幸せのために、家庭生活に貢献していこうとする心情を育てる。

■展開の構想

人間理解の発問では、日頃の祖母に対する多様な考え方や感じ方を引き出し、仲間と比べる中で、自分の強い気持ちに気付かせる。

価値理解の発問では、これまで祖母にしてもらったことを見つめ、祖母に感謝し、祖母のために役立っていこうとする心情を深めていく。

自己を見つめる発問では、今までの自分の家族に対する考えを振り返り、家族の一員として役立つことをしようとする。

■基本発問(◎価値理解の発問)

○朝子は、日頃の祖母がやることにに対して、どんなことを思っていたのだろう。

◎朝子はあんなにも祖母に強く当たっていたのに、どうして「今度は私の番だからね」と祖母に伝えたのだろう。

○学習を終えて、今までの自分の家族に対する考えを振り返り、家族に対しての思いを見つめてみよう。

4 本時のねらい

家族は自分の成長を願い、愛情深く育ててくれる感謝すべき存在であることに気付き、家族の幸せのために、家庭生活に貢献していこうとする心情を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と内容	教師の指導・援助と留意点
気 付 く	1 価値に関わる自分の考え方や感じ方を意識する。 ○家族があなたに言ったことやしたこと、うれしかったこと、嫌だったことはありますか。 ・野球の試合に来て、応援してくれたことがうれしかった。 ・宿題をやろうとしていたのに、やるように言われ嫌だった。	・事前に行ったアンケートの結果をもとに、家族について様々な考え方や感じ方があることに気付く機会とし、本時のねらいにつなげる。
深 め る	2 教材「祖母のりんご」を読んで話し合う。 ○朝子の祖母との関わりで分かるな、変わったなと感じた所を交流する。 ・祖母が朝子にすることで、嫌な気持ちになることはわかる。 ・「今度はわたしの番だからね」と言った朝子は気持ちが変わってきたと思う。 (1) 朝子は、日頃の祖母がやることに対して、どんなことを思っていたのだろう。 ・うとうしい。 ・迷惑になるから、やめてほしい。 ・認知症だから仕方がない、あきらめるしかない。 ・祖母が以前と比べ変わってしまい、どうすれば良いか分からない。 【中心発問】 (2) 朝子はあんなにも祖母に強く当たっていたのに、どうして「今度は私の番だからね」と祖母に伝えたのだろう。 ・小さいころ、祖母に優しく育ててもらってきたこと思い出したから。 ・今まで大切に育ててくれたことの感謝の気持ちから、今度は自分が祖母を優しく支えたいと思えたから。 ・自分のことを忘れても、優しく育ててくれた祖母であることに変わりはないと気付いたから。 ・家族のために生きてきた祖母を、今度は自分が支えていこうと思ったから。 ○朝子(児童)と祖母(教師)で役割演技をする。 ・祖母…「私の番とはどういうことだい？」 ・朝子…「わたしが病気の時、優しく看病してくれてありがとう。おばあちゃんが困ったときは、今度は私が助けたいと思ったんだよ。」 大切に育ててくれたことに感謝し、 家族のために役立つことを。	・教材の範読を聞きながら、朝子の発言や行動について付箋を貼る。 青(人間理解)…分かるな 赤(価値理解)…気持ちが変わったな ・朝子が祖母につらく当たってしまった状況をきちんと捉え、朝子の祖母への多様な考え方や感じ方を引き出すようにする。 ・それぞれの意見と自分の意見を比較し、どのように感じたか、今の自分の考えを述べるように助言する。 「人間理解での考え、議論する」 意図的指名 B、C→A ・「祖母を支えたい」という意見には、支えたいとはどういうことかを問い、朝子の言葉の意味に込められた思いに迫る。 ・友達の意見を聞いて、自分の考えてと比べて話すよう助言する。 「価値理解における考え、議論する」 意図的指名 B、C→A ・朝子(児童)と祖母(教師)で役割演技をし、祖母を感謝し、祖母のために役立っていこうとする気持ちを感じ得できるようにする。 ・観客は、父親の気持ちになって聞くことで、家族を大切にする朝子を見て、父親が幸せな気持ちになることおさえ、祖母を大切にすることは、祖母と父親の幸せ、更には家族の幸せにつながっていくことに気付けるようにする。
見 つ め る	3 本時の価値に照らして、自分を見つめる。 ○学習を終えて、今までの自分の家族に対する考えを振り返り、家族に対しての思いを見つめてみよう。 ・親や祖父母から「～しなさい」と言われると、うるさいなと思うことが多かったけど、いつも近くで見守ってくれていたことを忘れていたと思う。いつもご飯を作ってくれたり、気にかけてくれることに感謝して、家族に役立つことをやっていきたいな。 4 教師の話聞く。	【見つめタイム】 ・今までの自分を振り返り、自分の行為や、その時の気持ちを見つめられるように具体例を2～3例挙げる。 意図的指名 A

道徳科学習指導案

1 主題名 自分の心に誠実に

2 教材名 「手品師」

3 主題構成表

■内容項目 A 正直、誠実

(低学年) A(2)うそをついたりごまかししたりしないで、素直に伸び伸びと生きること。

(中学年) A(2)過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。

(高学年) A(2)誠実に、明るい心で生活すること。

(中学校) A 自主、自律、自由と責任

(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

■価値の分析

過ちや失敗は誰にでも起こりうることであるが、その時に嘘を言ったり、ごまかしをしたりすると、それは真の解決とはならない。このようなことは、他者との関係においてのみならず、自分自身の中にも、後悔や自責の念、良心の呵責などを生じさせることになる。正直な心を持ち、自分自身に対して誠実に生活しようとすることの大切さについて考えさせたい。

■児童理解

【行為】

A:どんな時も、誠実に行動できる。

B:目先の利益や周囲の目に囚われ、誠実に行動できる時とできない時がある。

C:目先の利益に囚われ、誠実に行動できない。

【意識】

ア:相手や自分をごまかして行動すると後々心が苦しい。後悔する。

イ:約束したから、自分で決めたから。

ウ:自分が正しいと思うことはあるけれど、周りに合わせてごまかしておいた方が楽だな。

エ:自分が損をしないように多少のごまかしは必要だ。

オ:絶対に自分が損するのは嫌だ。

【主な意識と要因】

■教材について

手品師は、ある日町で男の子に手品を見せた。明日も手品を見せる約束をしたが、その夜、友人から明日大劇場に出演できるという電話が掛かってくる。長年の夢である大舞台で手品をするチャンスを取るか、男の子との約束を取るかで迷いに迷う手品師の気持ちを考えることで多様な考え方や感じ方に気付かせることができる。その後、男の子との約束を守り、たった一人のお客さんの前で素晴らしい手品を披露する手品師の姿を通して、約束を守ることや目先の利益に囚われずに行動することは、相手のためだけでなく自分のためでもあることに気付かせるとともに、自分の心を裏切らずに誠実に生きることがすがすがしい気持ちにつながることに気付かせたい。

■ねらい

目先の利益を優先するのではなく、自分の心に誠実に行動することですがすがしい気持ちになることに気付き、自分自身に誠実に生きていこうとする心情を育てる。

■展開の構想

思いがけないチャンスや友人からの厚意を受けたいという思いと、男の子との約束を守らなければならないという思いとの間で葛藤する手品師の心に共感させることで、手品師の心の多様な考え方や感じ方を引き出し、自分と仲間との考えを比べる中で、自分の強い気持ちに気付かせる。

友人からの誘いをきっぱりと断った手品師の気持ちを追求する中で、誠実な生き方を選んだ心情や、約束を守るのは男の子のためだけでなく自分自身の生き方を裏切らないためであったことに気付くことができるようにする。また、一人の少年の前で手品をしている手品師の気持ちを追求する中で、自分の心を裏切らない誠実な行動をすることが、すがすがしい気持ちにつながることを感じさせ、自己を見つめさせたい。

■基本発問(◎中心発問)

○「迷いに迷った」手品師はどんなことを思っていたらう。

◎あんなにも迷っていたのに、手品師が友人からの誘いをきっぱりと断ったのは、どうしてだろう。

○たった一人の少年の前で手品をしている手品師は、どんな気持ちになっているだろう。

○誠実に行動できたことやできなかったことにどんなことがありますか。その時どんな気持ちになりましたか。

4 本時のねらい

目先の利益を優先するのではなく、自分の心に向き合って誠実に行動することですがすがしい気持ちになることに気づき、自分自身に誠実に生きていこうとする心情を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と内容	教師の指導・援助と留意点
気 付 く	1 価値に関わる自分の考え方や感じ方を意識する。 ○自分が得をするために、ごまかしたり嘘をついてしまったりしたことはありますか。その時どんな気持ちになりましたか。	・かがやきノートの記述などをもとに、誠実に生きるとはどういうことかを考えるきっかけになる機会を設ける。
深 め る	2 教材「手品師」を読んで話し合う。 ○手品師のしたこと、「分かるな」「いいな」と思うところはどこですか。 ・大劇場の誘いと男の子との約束で、どちらを選ぶか迷ったところの気持ちがわかる。 ・大劇場の誘いを断って、男の子との約束を優先すると決めたところがいい。 (1)「迷いに迷った」手品師はどんなことを思っていただろう。 ・やっときた自分の夢が叶うチャンスだ。 ・友人の厚意を断ったら二度と紹介してくれないかもしれない。 ・有名になったら楽な暮らしができるぞ。 ・男の子にはまた暇な日に手品を見せればいい。 ・約束を破ったら男の子がさらに悲しむだろうな。 ・男の子との約束を守らなかったら、大舞台に立ってもずっとそのことが心に引っ掛かるだろう。 【中心発問】 (2) あんなにも迷っていたのに、手品師が友人からの誘いをきっぱりと断ったのは、どうしてだろう。 ・約束したからには守らなくては気が済まない。 ・約束を破ったら、後ろめたい気持ちになる。 ・悲しんでいる男の子をさらに悲しませる。 ・大舞台はまた機会があるかもしれないが、男の子との約束を破れば、自分はずっと後悔する。 ・自分の都合で男の子との約束を破ったら、自分を許せない。すがすがしい気持ちでできない。 ・男の子との約束を破ることは、自分自身の心を裏切ることになる。 (3) たった一人の少年の前で、手品をしている手品師は、どんな気持ちになっているだろう。 ・男の子がこんなに笑顔になってくれた。やっぱり約束を守ってよかった。 自分の心を裏切らないことが、 すがすがしい気持ちにつながる	・教材の範読を聞きながら、手品師の言葉や行動に付箋を貼る。 青(人間理解)…分かるな。 赤(価値理解)…いいな。 ・思いがけないチャンスや友人からの厚意を受けたいという思いと、男の子との約束を守らなければという思いとの間で葛藤する手品師の心に共感させ、発言された意見を構造的に板書するようにする。 ・仲間の意見と自分の意見を比較し、どのように感じたか、また今の自分の考えはどうか問う。 「人間理解での考え、議論する」 意図的指名 B、C→A 【補助発問】 ○自分が後悔しないように約束を守った心情や、男の子を思いやる真心から約束を守った心情を捉えさせ、自分自身がすがすがしく生きていくためであったことに気付くことができるようにする。 意図的指名 A→B、C ・価値に迫る意見を取り上げ、仲間の意見と自分の意見を比較し、どのように感じたか、また今の自分の考えはどうか問う。 「価値理解における考え、議論する」 意図的指名 A→B、C→A 【役割演技】 ○男の子との約束を守って手品を披露する手品師のすがすがしい気持ちの感得を役割演技で行う。 意図的指名 A
見 つ め る	3 本時の価値に照らして、自分を見つめる。 ○誠実に行動できたことやできなかったことにどんなことがありますか。その時どんな気持ちになりましたか。 ・縄跳びで、本当は49回しか跳べていなかったけど、最高記録にしたくて50回と言ってしまったことがある。周りの子は「すごいね」と褒めてくれて賞状を貰えたけど、嬉しくなかった。周りはごまかせても自分はごまかせないから、自分に嘘をつかないで胸を張れる行動をしていきたい。 4 教師の話聞く。	【見つめタイム】 ・価値を踏まえ、自分自身の行動を振り返り、かがやきカードに書くことで、本時の価値に向き合わせるようにする。 意図的指名 A ・事例を紹介し、自己を見つめやすくしてから、一人一人が自己を見つめる。

道徳科学習指導案

- 1 主題名 がんばって つづける
- 2 教材名 「やれば できるんだ」
- 3 主題構成表

■内容項目 A 希望と勇気、努力と強い意志

- (低学年) (5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。
 (中学年) (5) 自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志を持ち、粘り強くやり抜くこと。
 (高学年) (2) より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。
 (中学校) (5) 真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。

■価値の分析

この時期の児童は、何事に対しても興味・関心が高く、さまざまなことに挑戦しようという意欲ももっている。しかし、自らががんばろうと決めたことでも、つらいことや苦しいことがあるとくじけてしまうことも少なくない。一度やろうと決めたことを最後までやり遂げるためには、少しずつでも前に進もうとする姿勢や、向上心をもち続けることが大切である。やり遂げたときの喜びや充実感を味わうことで、努力し続けることのよさや、努力した自分のよさに気付くことは、児童のこれからの人生において大事な力となる。そのためにも、児童が主体的に取り組むこと、そしてその頑張りを認め、励ますことが大切である。頑張った結果の達成感や充実感を、これからも物事に正対し、あきらめずに取り組んでいこうという意欲や態度につなげていきたい。

■児童理解

【行為】

- A: 自分のやらなければいけない勉強や仕事を、最後までやり切る。一つのことのできたら次の段階に挑戦する。
 B: 自分のやらなければいけない勉強や仕事を、途中でやめることがある。
 C: 自分のやらなければいけない勉強や仕事を、最後までやり切ることができないことがよくある。

【意識】

- ア: 最後までやり切ると、気持ちがいい。
 イ: 最後までやり切ると、褒めてもらえる。
 ウ: 少しくらいできなくてもいいだろう。
 エ: 苦しいことを続けるのは大変だ。
 オ: できなくなってもいいや。
 カ: いやなことはやりたくない。

【主な意識と要因】

■教材について

本教材は、うんていができなかった主人公が、あきらめずに練習を重ね、できるようになるという児童作品を教材としている。書き手の児童とその父母が、手のひらにできた固いところ(まめの痕)について話しているところから始まり、その後児童の努力の経緯が語られ、最後には、うんていが最後までできた喜びとともに1段階拔かしに挑戦したいという次の目標が描かれている。

本教材を通して、1年生の児童なりに、自分で立てた目標に対して、つらいことや苦しいことにもくじけず、努力することの大切さややりきったときの充実感や満足感を感じさせたい。

■ねらい

やらなければいけない勉強や仕事を最後までやり遂げることで気持ちよくなることに気付き、途中であきらめずにしっかりとやろうとする心情を育てる。

■展開の構想

人間理解の発問では、うんていができなくて、何回も練習していた主人公の手のまめがつぶれたときにどんな気持ちだったかを考え、がんばり続けることの苦しさや、もうやめてしまいたいという多様な気持ちを引き出し、自分の強い気持ちに気付かせる。

価値理解の発問では、つらいと思いつつも練習を続けるのはどうしてかと考えることで、つらくても、自分で決めたことを最後までやり切りたいという思いに気付かせる。さらに、できたときの気持ちを追求することで、満足感や達成感を感じさせ、次の目標に向かってまた努力を続けようという前向きな思いをもてるようにする。

自己を見つめる発問では、やらなければいけない勉強や仕事でやり切ったことを見つめる。

■基本発問(◎中心発問)

○うんていができなくて、何回も練習してまめがつぶれたとき、どんなことを考えているでしょう。

◎まめができて痛いの、どうしてわたしは、休み時間や体育の時間、休みの日まで練習をたくさんしたのでしょう。

○最後までできるようになったとき、わたしはどんな気持ちになったのでしょう。

○自分がやらなければいけない勉強や仕事で、最後まで頑張れたことはありますか。

4 本時のねらい

やらなければいけない勉強や仕事を最後までやり遂げることで気持ちよくなることに気付き、途中であきらめずにしっかりとやろうとする心情を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と内容	教師の指導・援助と留意点
気 付 く	1 登場人物や本時の価値に関わる活動を押さえる。 ○やらなければいけない勉強や仕事には、どんなことがありますか。 係活動や当番活動、掃除、宿題、家の仕事など ○登場する「わたし」について確認しよう。 ・わたしは、みんなと同じ1年生だよ。 ・うんていができるようになりたくて、頑張っているよ。 ・うんていって、何度もやると手のひらにまめができて、痛いよね。	・展開の後段とつながるように、価値適用の場を広げる。学校だけでなく、家庭のことまで広める。 ・「わたし」の状況について確認する。
深 め る	2 教材「やれば できるんだ」を読んで話し合う。 ・(まめがつぶれたところ) 痛いけど、頑張って。 ・(うんていができるように何度も練習しているところ) もう少しだよ、頑張れ。 ・(うんていができるようになったところ) よく頑張ったね。すごいね。 できるようになってよかったね。 (1) うんていができなくて、何回も練習してまめがつぶれたとき、どんなことを考えているでしょう。 ・なかなかできるようにならないな。 ・たくさん練習しているのに、どうしてできないの。 ・まめがつぶれて、手が痛いな。 ・何回やってもできるようにならなくて、もうやめようかな。 【中心発問】 (2) まめができて痛いのに、どうしてわたしは、休み時間や体育の時間、休みの日まで練習をたくさんしたのでしょうか。 ・わたしだけができないのはいやだ。 ・練習を続けていけば、きっとできるようになるはずだ。 ・手が痛いけれど、途中でやめたらできるようにならない。 ・最後まで頑張ると決めたのだから、最後まで頑張りたい。 (3) 最後までできるようになったとき、わたしはどんな気持ちになったのでしょうか。 ・できるようになって嬉しかった。 ・練習を頑張ればできるようになると分かった。 ・もっともっと頑張って、できることを増やしたい。 あきらめないで さいごまでやりきると きもちがいい	・範読中に、「わたし」のしたことについて感じたことをつぶやくように、事前に児童につぶやき方を示す。児童の自然な反応から基本発問や中心発問へつなげられるようにする。 【役割演技】全体→指名 ・頑張りたいと思いながらも、いつまでもできるようにならないことや、手が痛くなってきたこと、もうやめてしまいたいという多様な思いを引き出し、自分の一番強い気持ちに気付けるようにする。 「人間理解での考え、議論する」 【役割演技】全体→指名 ・全体の場で役割演技をする児童の様子や表情について、見ている他の児童がその様子を見て感じたことを話したり、自分の役割演技の様子と比べながら話したりするように促す。 【補助発問】 ○教師が「手にまめができて、痛いんじゃないの。練習をやめたら痛くなくなるよ。」と問いかけ、痛いからやめたいという気持ちはあるものの、それでも、自分で決めたことは最後までやり切りたいという強い思いを捉えられるようにする。 ・本文最後の「次は1段抜かしに挑戦です。」を取り上げ、さらに高い目標に挑戦したいという思いへつなげられるようにする。 ・最後までやり切ることの難しさと、それでもあきらめずに頑張ることの大切さに気付くようにする。意図的指名 B、C→A 「価値理解における考え、議論する」
見 つ め る	3 本時の価値に照らして、自分を見つめる。 ○自分がやらなければいけない勉強や仕事で、最後まで頑張れたことはありますか。 ・計算カードで何度も練習したら、タイムが速くなってきました。途中で嫌になったけど、頑張ってよかった。 ・なわとびが全然跳べなかったけれど、家でも学校でも練習していたら跳べるようになりました。やめなくなったとき、友達が応援してくれて頑張れました。 4 教師の話进行を聞く。	【見つめタイム】 ・様々な場面の絵を提示し、自分の様子を思い出すためのヒントとする。 ・かがやきノートへの記入はせず、全体交流の場で話せるようにする。 意図的指名 A

道徳科学習指導案

1 主題名 気持ちを伝え合って

2 教材名 「水やり係」

3 主題構成表

■内容項目 B 相互理解、寛容

(中学年) (10) 自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。

(高学年) (11) 自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

(中学校) (9) 自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと

■価値の分析

人の考え方は多様である。社会生活では、その多様さを相互に認め合いながら協力することができる関係を築くことが不可欠である。自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止め、相手への理解を深めることで、よりよい人間関係や集団を作っていくことができる。

しかし、私たち人間は、自分の立場を守るため、つい他者の失敗や過ちを一方的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自分本位になりやすい。このような姿勢は、いじめにつながっていく可能性もある。互いの違いを認め合い、理解し合いながら、自分と同じように他者を尊重する姿勢を育てることが重要である。

■児童理解 【行為】

【意識】

A: 自分の意見を伝えるだけでなく、相手の意見もしっかり聞いている。

ア: お互いに思いを伝え合って、楽しく過ごしたい。

B: 自分の意見は伝えるが、相手の意見は聞かない時がある。

イ: 自分も相手も違った考えをもっているのだな。

ウ: 相手も自分ときっと同じ考えだ。たぶんそうだろう。

C: 自分の思いを伝えず、相手の思いも聞かない。

エ: 相手の意見を聞いても意味がない。

オ: 自分の思いを伝えても意味がない。

【主な意識と要因】

■教材について

ゆうかさんが、水やりの仕事をしていないのではないかという思い込みを抱いたまま、他の友達にその不満をぶつけてしまう「わたし」。その姿から、ゆうかさんと友達であるなら、「わたし」はどんな気持ちでゆうかさんと向き合えばよいのかについて考える。また、相手の立場や事情がよく分からない中で自分の考えを伝えるときには、どのようなことに気を付けるとよいかを考えるようにしたい。

■ねらい

自分の考えを伝えるときには、どんなことが大切かに気づき、相手の考えや行動の背景を理解しながら、自分の考えを伝えようとする態度を育てる。

■展開の構想

人間理解の発問では、どうして聞かなければいけないと分かっているのに聞かなかったのだろうと問うことで、聞けない「わたし」の多様な考え方や感じ方を表出させ、仲間と比べる中で、自分の強い気持ちに気付かせる。また、みつきくんの話を聞いて、私はどう思ったのだろうかを問うことで、聞こうと思っている自分と聞きにくいと思っている自分を表出させ、悩んでいる気持ちや困っている気持ちを明確にできるようにする。

価値理解の発問では、困っている自分の思いから、こうならないためには、どの場面でどうするとよかったのかを問うことで、具体場面で振り返ることができるようにする。

自己を見つめる発問では、自分の考えを相手に伝えたり伝えられなかったりしたことやそのときの気持ちを見つめる。

■基本発問(◎中心発問)

○どうして聞かなければいけないと分かっているのに聞かなかったのだろう。

○みつきくんの話を聞いて、わたしはどう思ったのだろう。

◎こうならないためには、どの場面でどうするとよかったのだろう。

○自分の思っていることを、相手の気持ちを聞かなかったり、自分の思っていることを一方的に言ってしまったことはあるかを最初に考えてもらいました。どんなことがありましたか。その時どのような気持ちでしたか。振り返ってみましょう。

4 本時のねらい

自分の考えを伝えるときには、どんなことが大切かに気づき、相手の考えや行動の背景を理解しながら、自分の考えを伝えようとする態度を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と内容	教師の指導・援助と留意点
気 付 く	1 価値に関わる自分の考え方や感じ方を意識する。 ○自分の思っていることを、相手に確認せず決めつけたり、自分の思っていることを一方的に言ってしまったりしたことはありますか。 ・遊びのときにルールについて「それは違う!」と相手の気持ちを考えずに言ってしまった。 ・相手の意見も聞かず、決め付けて話をしてしまった。	・思っていることを相手に言うことができなかったり、一方的に相手に意見を言ってしまったりしたことについて問いかけ、自分見つめの視点を広げる。
深 め る	2 教材「水やり係」を読んで話し合う。 ○わたしの言葉や行動について付箋を貼った所を交流する。 ・相手の話を聞いていなのに腹が立ったことが残念。 ・聞きにくくて、ゆうかさんに聞けなかった所が残念。 (1) どうして聞かなければいけないと分かっているのに聞けなかったのだろう。 ・聞いたら文句を言われるかもしれない。 ・嫌な顔をされるかもしれない。 ・友達だから聞きにくいな。 ・話を聞いてくれなかったらどうしよう。 ・ケンカになったら嫌だな。 (2) みつきくんの話を聞いて、わたしはどう思ったのだろう。 ・このままだと、みんなが困る。 ・言わずにそのままにしていはいけないな。 ・相手の理由は聞かずに自分の事だけ話をしてしまった。 ・相手にも何か理由があるかもしれない。 ・聞いてみないと相手の気持ちは分からない。 ・どうしたらいいのだろう。 【中心発問】 (3) こうならないためには、どの場面でするとよかったのだろう。 ・「ちゃんと水やりをしているのかな」と思ったときに、ゆうかさんに話を聞いて聞けばよかった。 ・ふみさんやみつきくんに話をしたときに、自分の気持ちをぶつけるのではなく、「何かあったのかな?」と聞いてみればよかった。 相手の思いも聞き、自分の思いを伝えることが大切	・教材の範読を聞きながら、主人公のゆうかさんにしたこと、残念なところについて付箋を貼る。 青(人間理解)…残念だな ・ゆうかさんが水やり係の仕事をしていない理由を決めつけ、腹が立っていたことを抑える。その上で、相手に聞いた方がよいと分かっているのに、聞けない「わたし」の多様な考え方や感じ方を引き出し、仲間と比べる中で、強い気持ちに気付かせる。 意図的指名 B、C→A ・自分の中でどの思いが一番強いのかを確認し、立場をハッキリとさせる。自分の気持ちの強さをそれぞれの意見を比較し、どのように感じたか、今の自分の考えを述べるように助言する 「人間理解での考え、議論する」 【補助発問】 ・「今、わたしの中にはどんな気持ちがあるのだろうか」と問いかけることで、わたしの中に「聞く」「聞かない」の両方の気持ちがあり、困っている(迷っている)ことに気付かせる。 ・自分の中でどの思いが一番強いのかを確認し、立場をハッキリとさせる。価値に迫る考え方(話を聞けばよかった)ことを取り上げ、その考えを聞いて、自分の今の考えと比べて話すように助言する。 「価値理解における考え、議論する」
見 つ め る	3 本時の価値に照らして、自分を見つめる。 ○自分の思っていることを、相手の気持ちを聞けなかったり、自分の思っていることを一方的に言ってしまったりしたことはあるかを最初に考えてもらいました。どんなことがありましたか。その時のことを今はどう思いますか。振り返ってみましょう。 ・仲よしタイムで氷おにをしていたときに、おにが見張りをしていて、相手の意見を聞かずに「見張りをするのはルール違反だ。だめだよ。」と一方的に言ってしまった。ルールは守らないとダメと思っていたけど、しっかり話し合いをして、相手の意見も聞けばよかったと思った。 4 教師の話聞く。	【見つめタイム】 ・日常生活や学校行事、授業などにおいて、一方的な思いを押し付けたり、思いを打ち上げず考え込んだりした経験を思い出し、その時にどのような様子でどんな気持ちになったのかを振り返ることができるようにする。 意図的指名 A

道徳科学習指導案

- 1 主題名 気持ちを伝え合って
- 2 教材名 「水やり係」
- 3 主題構成表

■内容項目 B 相互理解、寛容

- (中学年) (10) 自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。
(高学年) (11) 自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
(中学校) (9) 自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと

■価値の分析

人の考え方は多様である。社会生活では、その多様さを相互に認め合いながら協力することができる関係を築くことが不可欠である。自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止め、相手への理解を深めることで、よりよい人間関係や集団を作っていくことができる。

しかし、私たち人間は、自分の立場を守るため、つい他者の失敗や過ちを一方的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自分本位になりやすい。このような姿勢は、いじめにつながっていく可能性もある。互いの違いを認め合い、理解し合いながら、自分と同じように他者を尊重する姿勢を育てることが重要である。

■児童理解

仲よし2組の本児童は、普段の生活や授業において、仲間の意見や教師の発言に対して、「それ、いいね」や「なるほど」などと、思いや気持ちをさりげなく言葉に表すことができる。

一方、本児童の聞き方について振り返ると、決してよい聞き方とは言えない。

その理由として、相手の話を最後まで聞き取ろうとする集中力の弱さが、内容をつかみ切ることができないまま、勝手な判断に陥ることにつながっているのではと考えられる。

このような姿が見られる背景には、「まず自分の話を聞いてほしい」という本人の意識が多分に働いていることが考えられる。

【主な意識と要因】

■教材について

ゆうかさんが、水やりの仕事をしていないのではないかという思い込みを抱いたまま、他の友達にその不満をぶつけてしまう「わたし」。その姿から、ゆうかさんと友達であるなら、「わたし」はどんな気持ちでゆうかさんと向き合えばよいのかについて考えさせる。

■ねらい

自分の考えを伝えるときには、どんなことが大切かについて考えさせ、相手の考えや行動の背景を理解しながら、自分の考えを伝えようとする態度を育てる。

■展開の構想

人間理解の発問では、どうして言わなければいけないと分かっているのに言わなかったのだろうと問うことで、相手に言えない多様な考え方や感じ方を表出させ、仲間と比べる中で、自分の強い気持ちに気付かせる。また、みつきくんの話を聞いて、私はどう思ったのだろうかを問うことで、聞こうと思っている自分と聞きにくいと思っている自分を表出させ、悩んでいる気持ちや困っている気持ちを明確にできるようにする。

価値理解の発問では、困っている自分の思いから、こうならないためには、どの場面でどうするとよかったのかを問うことで、具体場面で振り返ることができるようにする。

自己を見つめる発問では、自分の考えを相手に伝えたり伝えられなかったりしたことやそのときの気持ちを見つめる。

■基本発問(◎中心発問)

○どうして聞かなければいけないと分かっているのに言わなかったのだろう。

○みつきくんの話を聞いて、わたしはどう思ったのだろう。

◎こうならないためには、どの場面でどうするとよかったのだろう。

○自分の思っていることを、相手の気持ちを聞かなかったり、自分の思っていることを一方的に言ってしまったことはあるかを最初に考えてもらいました。どんなことがありましたか。その時どのような気持ちでしたか。振り返ってみましょう。

4 本時のねらい

自分の考えを伝えるときには、どんなことが大切かに気づき、相手の考えや行動の背景を理解しながら、自分の考えを伝えようとする態度を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と内容	教師の指導・援助と留意点
気 付 く	1 価値に関わる自分の考え方や感じ方を意識する。 ○自分の思っていることを、相手に確認せず決めつけたり、自分の思っていることを一方的に言ってしまったりしたことはありますか。 ・遊びのときにルールについて「それは違う!」と相手の気持ちを考えずに言ってしまった。 ・相手の意見も聞かず、決め付けて話をしてしまった。	・思っていることを相手に言うことができなかつたり、一方的に相手に意見を言ってしまったりしたことはなかったか問いかけ、つぶやきを促す。
深 め る	2 教材「水やり係」を読んで話し合う。 ○わたしの言葉や行動について付箋を貼った所を交流する。 ・相手の話を聞いていないのに腹が立ったことが残念。 ・聞きにくくて、ゆうかさんに聞けなかった所が残念。 (1) どうして聞かなければいけないと分かっているのに聞けなかったのだろう。 ・聞いた文句を言われるかもしれない。 ・嫌な顔をされるかもしれない。 ・友達だから言いにくい。 ・話を聞いてくれなかったらどうしよう。 ・ケンカになったら嫌だな。 (2) みつきくんの話を聞いて、わたしはどう思ったのだろう。 ・このままだと、みんなが困る。 ・言わずにそのままにしていけないな。 ・相手の理由は聞かずに自分の事だけ話をしてしまっていた。 ・相手にも何か理由があるかもしれない。 ・聞いてみないと相手の気持ちは分からない。 ・どうしたらいいのだろう。 【中心発問】 (3) こうならないためには、どの場面でするとよかったのだろう。 ・「ちゃんと水やりをしているのかな」と思ったときに、ゆうかさんに話を聞いて聞けばよかった。 ・ふみさんやみつきくんに話をしたときに、自分の気持ちをぶつけるのではなく、「何かあったのかな?」と聞いてみればよかった。 相手の思いも聞き、自分の思いを伝える ことが大切	・教材の範読を聞きながら、主人公のゆうかさんにしたこと、残念なところ(人間理解)について青付箋を貼るとよいことを確認する。 ・ゆうかさんが水やり係の仕事をしていない理由を決めつけ、腹が立っていたことを確認する。その上で、相手に聞いた方がよいと分かっているのに、「聞きにくい」という理由で伝えられない「わたし」の気持ちに共感させる。 ・仲間の意見も聞いた上で、自分の中でどの思いが一番強いのかを確認し立場をはっきりするとよいことを伝える。そして、自分の考えを述べるように促す。 「人間理解での考え、議論する」 【補助発問】 ・「今、わたしの中にはどんな気持ちがあるのだろうか」を考えさせ、わたしの中に「聞く」「聞かない」の両方の気持ちがあり、困っている(迷っている)ことに気付かせる。 ・自分の中でどの思いが一番強いのかを確認し、立場をはっきりとさせる。 ・価値に迫る考え方(話を聞けばよかったこと)を取り上げ、その考えを聞いて、自分の今の考えと比べて話すといふことを助言する。 「価値理解における考え、議論する」
見 つ め る	3 本時の価値に照らして、自分を見つめる。 ○自分の思っていることを優先し、相手の気持ちを聞けなかったり、一方的に言ってしまったりしたことはあるかを最初に考えてもらいました。どんなことがありましたか。その時どのような気持ちでしたか。振り返ってみましょう。 ・仲よしタイムで氷おにをしていたときに、おにが見張りをしている、相手の意見を聞かずに「見張りをするのはルール違反だ。だめだよ。」と一方的に言ってしまった。ルールは守らないとダメと思っていたけど、しっかり話し合いをして、相手の意見も聞けばよかったと思った。	【見つめタイム】 ・日常生活や学校行事、授業などにおいて、一方的な思いを押し付けたり、思いを打ち上げず考え込んだりした経験がないか振り返らせ、その時にどのような様子でどんな気持ちになったのかを話すといふことを確認する。
	4 教師の話を聞く。	

道徳科学習指導案

- 1 主題名 正直な心で
- 2 教材名 「『正直』50円分」
- 3 主題構成表

■内容項目 A 正直、誠実

(低) A(2) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。

(中) A(2) 過ちを素直に改め、正直に明るいい心で生活すること。

(高) A(2) 誠実に、明るいい心で生活すること。

(中学校) A 自主、自律、自由と責任

(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

■価値の分析

正直でいることの大切さは、誰もが認めるところだが、実践するのは難しい。人は時に過ちや失敗をしてしまうものだが、その後どうするかが大切である。自分が責められたり不利な立場になったりすることを避けようとして、ごまかしやうそをついたりしても、一時しのぎにしかならない。何故なら他人に嘘はつけても、自分には嘘をつくことが出来ないからだ。自分に正直でいることが、気持ちがよいことだと気づき、うそやごまかしをしないで明るいい心で生活しようとする心情を育てていきたい。

■児童理解 【行為】

A: 正直に行動する。

B: 正直に行動できないことがある。

C: 正直に行動できないことが多い。

【意識】

ア: 正直な心で生活すると気持ちがよい。

イ: 褒められたい。

ウ: よく思われたい。

エ: 叱られたくない。

オ: 知らなければいいだろう。

カ: 自分は正しいと思っている。

キ: 時間がたっているから、見つからない。

【主な意識と要因】

■教材について

主人公はたこ焼きを買った際、おつりを多く貰ったことに気付く。次の人に押しのけられて、おつりをそのまま財布に入れてしまう。おつりを返すかどうか迷ったが、返すとお店のおっちゃんに驚き、「『正直』50円分。」と言って、たこ焼きをくれる。正直におつりを返した主人公の気持ちや、その主人公に対する弟の気持ちに着目させ、正直でいることのよさについて考えていきたい。

■ねらい

ごまかそうとした事を素直に認め正直でいると気持ちが晴れることに気づき、嘘やごまかしをしないで明るいい心で生活しようとする心情を育てる。

■展開の構想

人間理解の発問では、おつりを多くもらったことを言い出せない気持ちを追求する中で、多様な考え方や感じ方を引き出し、仲間と比べる中で、自分の強い気持ちに気付かせる。

価値理解の発問では、迷っていたけど正直に話すことに決めたたけしの気持ちを追求する中で、ごまかしをしたことを認めると、モヤモヤしていた気持ちがスッキリすることに気付けるようにする。さらに、価値に迫った発言を交流し、深められるようにする。また、役割演技を位置付け、実感をもって、たけしの嘘やごまかしは良くないと思った気持ちに気付くようにする。また、たこやきの味に触れ、正直でいることのよさに気付くようにする。

自己を見つめる発問では、正直に言えたり言えなかったりしたことを見つめる。

■基本発問 (◎中心発問)

○「たけし」はこのままおつりを返さないのはだめだと分かっているのに、すぐ言い出せなかったのはなぜだろう。

◎「たけし」はあれほど迷っていたのに、なぜおつりを返すことにしたのでしょうか。

○タ焼きの道を帰りながら、二人はどんな会話をしていたのだろう。

○今までに正直に出来たことや、出来なかったことはありますか。また、その時どんな気持ちでしたか。

4 本時のねらい

ごまかそうとした事を素直に認め正直でいると気持ちが晴れることに気付き、嘘やごまかしをしないで明るい心で生活しようとする心情を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と内容	教師の指導・援助と留意点
気 付 く	1 価値に関わる自分の考え方や感じ方を意識する。	・登場人物について簡単に説明してから、教材を範読する。
深 め る	2 教材「『正直』五十円分」を読んで話し合う。 ○「『正直』五十円分」を聞いて、感想を交流する。 ・おつりが多いことに気付いたけど、さいふに入れたところが残念だなと思った。 ・多かったおつりを返しにお店に行ったところがすごいと思った。 (1)「たけし」は、このままおつりを返さないのはだめだと分かっているのに、すぐ言い出せなかったのはなぜだろう。 ・お金が欲しい。 ・知らなければいいや。 ・言いに行くのが面倒。 ・驚いた。 ・今更言いにくい。 ・店の人が悪い。 【中心発問】 (2)「たけし」はあれほど迷っていたのに、なぜおつりを返すことにしたのでしょうか。 ・弟に知られてしまったから、返すしかない。 ・おばちゃんには言って、おっちゃんに言わないのは、なんだか悪い。 ・ごまかしたことをずっと忘れない。心の中に残る。 ・モヤモヤしたままは嫌だから、正直に言おう。 (3)夕焼けの道を帰りながら、二人はどんな会話をしていたのだろう。 ・はじめのたこやきより、おいしい。 ・迷ったけど、正直に言うて決めてよかった。 ・おつりの事をごまかしてしまったのはだめだったな。 ・おつりを返せてスッキリした気持ちだな。 正直でいると、自分はスッキリするし、周りの人もうれしい。	・教材の範読を聞きながら、たけしのしたことについて付箋を貼る。 青(人間理解)・・・残念だな 赤(価値理解)・・・いいな ・言い出せなくてモヤモヤしている多様な考え方や感じ方を引き出す。 意図的指名 B、C→A ・それぞれの意見と自分の意見を比較し、どのように感じたか、今の自分の考えを述べるように助言する。 「人間理解での考え、議論する」 ・ごまかしをしたことを認めると、モヤモヤしていた気持ちがスッキリすることを押さえる。 ・「自分の考えの他に確かにそれも大事ななと思う考えを発表してください。」と問いかけ交流し、価値観を高める。交流後、意図的指名をして、たしかにそう思うという考えを発表させる。 「価値理解における考え、議論する」 【役割演技】 ・教師がひろし、児童がたけしになりきって双方の心情を捉える。 ・役割演技中、教師から「兄ちゃん、おっちゃんは(おつりを多くもらったことを)知らないのに、どうしておつりを返したの。」と聞くことで、たけしはおつりを返すか返さないか、心の中での葛藤があったけれど、嘘やごまかしをしたままだと自分自身に嘘をつき続けることになりモヤモヤしてしまうから、おつりを返すことにしたということに、気付くようにする。 ・役割演技をする児童を見ていてどう感じたかを全体に問い、正直でいるとスッキリするという本時の価値に気付けるようにする。 意図的指名 A
見 つ め る	3 本時の価値に照らして、自分を見つめる。 ○今までに正直に出来たことや、出来なかったことはありますか。また、その時どんな気持ちでしたか。 ・当番の仕事を忘れていた時、友達に注意させれたから嫌な気持ちになって、仕事をやるとごまかしかけたけど、忘れていたことを正直に話すと、心がスッキリした。 ・今までけんかした時、自分がしてしまった悪い事をごまかしてしまってモヤモヤしたままだったから、これからは正直に言えるようになりたい。 4 教師の話を聞く。	【見つめタイム】 ・具体的な場面をいくつか例示し、自分の経験を思い出して話すことができるようにする。 意図的指名 A

道徳科学習指導案

- 1 主題名 分かり合うために
- 2 教材名 「ブランコ乗りとピエロ」
- 3 主題構成表

■内容項目 B 相互理解、寛容

- (中学年)B(10)自分の考えや意見を相手に伝えるとき、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。
- (高学年)B(11)自分の考えや意見を相手に伝えるとき、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
- (中学校)B(9)自分の考えや意見を相手に伝えるとき、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

■価値の分析

児童は、自分のものの見方や考え方について認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをこれまで以上に意識するようになる。そのため、学校生活を送るうえで、自分の考えを無理に押し通そうとしたり、勝手な振る舞いをしたりして、周囲の人とトラブルになることも少なくない。それは、自分の考えや意見が常に正しいという思い込みや、他者を受け入れようとしない態度が要因と考えられる。

このことから、考えの違う者同士が関わり合って暮らしていくには、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのか、相手の立場に立って考えることが大切である。そのためには、自分の考えや意見を他者に伝えるとともに、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重する心情を育てることが大切であると考えられる。

■児童理解 【行為】

- A:どんなときでも、相手のことを理解して活動することができ、たとえ失敗しても受け止めることができる。
- B:時と場合によって、失敗を許したり、意見の違いを認めたりすることができないときもある。
- C:意見の合わない相手には厳しく当たってしまう。

【意識】

- ア:失敗するのはお互い様だから、いいよ。
- イ:みんながいいなら、私もいいよ。
- ウ:相手が先に謝ってくれるなら、いいよ。
- エ:先生に叱られたくない。
- オ:もともと気が合わないから仕方ない。
- カ:私の方が正しく、あなたが間違っている。

【主な意識と要因】

■教材について

サーカスをまとめるリーダーのピエロと花形スターのサムは、1時間という制限で大王にサーカスの演技を見せようことになった。日頃からピエロは、わがままな言動のサムに腹を立てていた。当日、サムの演技が延長し、ピエロは大王の前で演技が出来なかったことに対して、とても腹を立てた。しかし、サムが誰よりも真摯に演技に向き合っていることに気付いたピエロは、サムを受け止め、それまでの行為を許し、サーカス団の一員であることを諭した。

児童には、身勝手な言動で到底許されるはずのないサムの言動を、演技後の様子を何度も思い出し、理解し、受け止めるピエロの思いを考えるようにする。そして、相手を受け止め、広い心で許していくことで、よりよい関係を築くことができることを感得させたい。

■ねらい

自分にも相手と同じ気持ちがあることに気付くことで、相手を許すことができることが分かり、広い心をもって相手を許していこうとする心情を育てる。

■展開の構想

人間理解では、日頃から、わがままな言動のサムに対する怒りの気持ちや、ピエロ自身も大王の前で演技を見せたかった悔しい気持ちを捉え、自分の心の中には、自分の考えや立場を優先してしまい、相手の考えや意見を一方的に否定したり、自分本位になったりする弱さの多様性を引き出し、仲間と比べる中で、自分の強い気持ちに気付かせる。

価値理解では、あんなにも許すことができなかったピエロがサムを許すことができたのは、ピエロがサムの立場で考え、サムの気持ちを理解し、広い心で相手を許すことで、よりよい人間関係が育まれることも感得させたい。

自己見つめでは、相手の気持ちや考えに寄り添った体験やできなかった体験を振り返り、広い心で相手を尊重する心情を育てたい。

■基本発問(◎中心発問)

○ピエロは日頃のサムのことをどう思っていたのだろう。

◎サムに対してあんなにも怒っていたのに、ピエロは、どうして憎む気持ちが消えたのだろう。

○明るい声に包まれた最終日が迎えられたとき、サムやピエロはどのようなことを考えていたのだろう。

○ピエロとサムの様に相手を受け止めたり、許したりした経験はありますか。

4 本時のねらい

自分とは異なる見方や考え方がある事を理解し合うことが、よりよい人間関係を築くことにつながると気づき、互いに分かり合うためには、自分の意見や考えを相手に伝えるときにも、謙虚な心や広い心をもって相手を受け止めようとする心情を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と内容	教師の指導・援助と留意点
気 付 く	1 価値に関わる自分の考え方や感じ方を意識する。 ○これまでに誰かに対して何かを許した経験を紹介する。 ・運動会の団体競技の時、チームや走る順番をどうするかで意見が合わなくて喧嘩になったでも、相手が謝ってくれたから、納得できて許せた。	・事前アンケートの記述をもとに、分かり合うとは何かを考えるきっかけになる機会を設ける。
深 め る	2 教材「ブランコ乗りとピエロ」を読んで話し合う。 ○ピエロがサムにしたことで、「分かるな」と「気持ちが変わったな」に付箋を貼りましょう。 ・ピエロは、こみ上げる怒りをこらえながらサムを見上げていた。ところが分かるな。 ・サムをにくむ気持ちが消えてしまったよ。おだやかな目がサムの目を見つめた。のところがよかったな。 (1) ピエロは日頃のサムのことをどう思っていたのだろう。 ・自分だけ目立とうとして、勝手すぎる。 ・団長の私の言うことをどうして聞かないのだ。 ・自分だけ目立とうとしている。 ・時間の約束をいつも守らない。 ・もう、この団にはいてほしくない。 【中心発問】 (2) サムに対してあんなんにも怒っていたのに、ピエロは、どうして憎む気持ちが消えたのだろう。 ・サムが一生懸命頑張っていることが伝わった。 ・サムは単に目立ちたいわけではなかったことを知った。 ・いつも体力の限界まで頑張っている。 ・サーカスを見に来たお客さんに喜んでほしいと強く思っている。 ・目の前の演技をとにかく一生懸命頑張っていることを知った。 ・私も心のどこかで目立ちたいという思いがあった。 (3) 明るい声に包まれた最終日が迎えられたとき、サムやピエロはどのようなことを考えていたのだろう。 ・(サム) 私は今まで自分勝手に行動していたのに、どうして許してくれたの。 ・(ピエロ) 私にも目立ちたい思いがあって、サムと一緒にやったことに気付いたよ。だから、サムのことを許せたのだよ。 ・(サム) 私こそがスターだと勝手に思って目立とうとして、本当にごめんなさい。 ・(ピエロ) こっちこそ、ごめん。分かってくれて嬉しいよ。一緒にサーカスを成功させていこう。 自分にも同じ気持ちがあることが分かって、許す。	・教材の範読を聞きながら、ピエロがサムにしたことについて付箋を貼る。 青(人間理解)・・・分かるな 赤(価値理解)・・・気持ちが変わったな ・ピエロの日頃のサムの行動に対するような考え方や感じ方を引き出し、仲間と比べる中で、自分の強い気持ちに気付かせる。 意図的指名 B、C→A ・それぞれの意見と自分の意見を比較し、どのように感じたか、今の自分の考えを述べるように助言する。 「人間理解での考え、議論する」 【補助発問】 ・「サムの演技が一生懸命だったり、素晴らしいかったりすれば、簡単に憎む気持ちが消えるのだろうか。」と問いかけ、安易に許したわけではないことを押さえる。 ・「私にも目立ちたいという気持ちがサムと同じようにあったことで許すことができた」という発言を捉えて、この考えをどう思うかと問いかけ、本時に狙う価値観を高める。 「価値理解における考え、議論する」 ・互いに理解し合うことや、尊重し合うことで、よりよい関係づくりに繋がることに気付くことができるようにする。 【役割演技】全体→指名 ○ピエロとサムが分かり合えた心の交流を役割演技で行う。 サム:教師、ピエロ:児童 意図的指名 A
見 つ め る	3 本時の価値に照らして、自分を見つめる。 ○ピエロとサムの様に相手を受け止めたり、許したりした経験はありますか。 ・学級みんなは、私が縄に入ることを苦手と感じていることをみんなが知っていてくれる。私が失敗しても、「ドンマイ。」と返してくれる。だから安心して当日を迎えることができたし、やってよかったと思えた。	【見つめタイム】 ・相手の気持ちや考えに寄り添った体験やできなかった体験を振り返る。また、自分の課題に気づき、寄り添いたいという意欲につなげていく。 意図的指名 A
	4 教師の話聞く。	

道徳科学習指導案

- 1 主題名 友達とは
- 2 教材名 「コスモスの花」
- 3 主題構成表

■内容項目 B 友情、信頼

- (低学年) B(9) 友達と仲よくし、助け合うこと。
 (中学年) B(9) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
 (高学年) B(10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
 (中学校) B(8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

■価値の分析

友達とは家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、児童にとっては最も重要な人間関係の一つである。友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。また、友情によって結ばれた友達は豊かに生きる上で、かけがえのない存在となりうる。そして、高学年になると、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達との信頼関係を深めていこうとするが、趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向が生まれる。そのため、疎外されたように感じたり、友達関係で悩んだりする児童も増えてくることが考えられる。よりよい友達関係を築くためには、友達同士が互いに相手の立場に立ち、相手の気持ちに寄り添うことが大切である。

このことから、友達同士の相互の信頼の下、友情によって結ばれた友達関係であるならば、切磋琢磨し、成長することができるのではないかと考える。そこで、日常においても協力し合う活動を通して、互いに磨き合い、高め合うような友情を育て、互いを信頼し合う人間関係を築いていくようにしたい。

■児童理解

【行為】

A: 信頼し合う友達があり、学び合って友情を深めている。

B: 信頼し合う友達はいるが、友達関係には不安を抱えている部分がある。

C: 話をするだけの友達がいる。

【意識】

ア: ダメなことは伝え合い、お互いのよい所や凄いところは一緒に喜び合ったり、褒め合ったりする。

イ: ダメなことはダメとしっかり伝え合っていない。

ウ: 気を遣いながら過ごせば、傷つくことはないからこのままの関係でいい。

エ: 友達のことはあまり考えず、自分のことを優先にしている。

【主な意識と要因】

■教材について

目立たない北山と積極的なぼくは、気が合う仲間であった。ある朝、田村が持ってきたコスモスを北山がきれいに生けると、皆が注目し、賞賛した。そのクラスの雰囲気は昼休みも続いていたこともあり、ぼくは今までと立場が逆になったような気がして、反感をもつ。しかし、北山を悪くいう声が聞こえると、思わず「やめろよ」と声を出していた。友達とは対等であり、かけがえのない存在であることは分かっているが、優劣をつけてしまっている人間の弱さに着目させる。周りが北山に対して嫉妬する声を聞いたぼくが、「やめろよ」と思わず声を出した姿を通して、自分自身も同じことをしていたと気づき、本当の友達とは、互いに信頼し合い、対等な関係であることに気付かせたい。

■ねらい

友達に対して、どんな立場や状況になったとしても、相手のことを思い行動することの大切さに気づき、互いに信頼し合う友達関係を築いていこうとする心情を育てる。

■展開の構想

人間理解では、二人の普段の立場が逆転していることを押さえた上で、ぼくが「北山なんて」と思うことは、人間誰も経験したことがある妬みであり、いら立ってしまうぼくの弱い多様な気持ちに気付かせ、仲間と比べる中で、自分の強い気持ちがわかる。

価値理解では、「思わず」声を出すということは、これまでの北山に対する複雑な思いを胸に抱えた上で、ぼくの心にあった北山への思いを表出できたことに気付くことができるようにする。また、ぼくも他の人と同じように悪口を言っていたことを問うことで、自分自身も同じことをしていたことに気づき、友達としての付き合い方や立場の在り方を振り返るようにする。それらの姿を通して、本当の友達とは、互いに信頼し合える対等な関係であることに気付かせたい。

高学年の「友情、信頼」のねらいから自己を見つめる。

■基本発問(◎中心発問)

○北山は友達なのに、ぼくはどうして「北山なんて」と思ったのだろう。

◎ぼくが「やめろよ」と思わず声に出していたのは、どうしてだろう。

○信頼している友だちについて、これまでの自分はどうかを見つめよう。

4 本時のねらい

友達に対して、どんな立場や状況になったとしても、相手のことを思い行動することの大切さに気付き、互いに信頼し合う友達関係を築いていこうとする心情を育てる。

5 本時の展開

	学習活動と内容	教師の指導・援助と留意点
気 付 く	1 価値に関わる自分の考え方や感じ方を意識する。 ○友達についてのアンケートの結果を提示する。	・事前アンケートやかがやきノートの記述をもとに、本当の友達とは何かを考えるきっかけになる機会を設ける。 ・ぼくと北山が友達同士であることをおさえる。
深 め る	2 教材「コスモスの花」を読んで話し合う。 ○友達としてぼくが北山にしたことで、「分かるな(残念だな)」「すごいな」と思うところはどこですか。 ・普段は目立たないけれど、ぼくよりもみんなから注目されている姿が気に入らない気持ちが分かるな。 ・北山に対して悪さをしようとしているクラスの仲間に「やめろよ」と言ったところがすごいと思った。 (1) 北山は友達なのに、ぼくはどうして「北山なんて」と思ったのだろう。 ・北山だけ目立ってうらやましいから。 ・周りの仲間も北山の味方をしているから。 ・普段は全然目立たないのに、花を生けることができるだけでいい気になっているから。 ・いつもはぼくが北山の世話をしているのに立場が逆になった気がしたから。 【中心発問】 (2) ぼくが「やめろよ」と思わず声に出していたのは、どうしてだろう。 ・北山は何も悪いことをしていないのに、そんなことを言うなんておかしいから。 ・自分も北山に対して悪いことを考えていた。北山のことを信じていなかった。申し訳なかったと思ったから。 ・北山に対して悪いことを考えた自分に腹が立ったから。 ・北山はぼくの友達なんだ。友達にそんなことを言うなんて許せないから。 ・北山は大切な友達だからこそ、北山が困っているときには手を差し伸べる関係でいたいから。 本当の友達、対等な関係で、 お互いに信頼し合うことが大切。	・教材の範読を聞きながら、ぼくが友達の北山にしたことについて付箋を貼る。 青(人間理解)…分かるな。残念だな。 赤(価値理解)…すごいな。 ・二人の普段の立場が逆転していることを押さえた上で、ぼくが「北山なんて」と思うことは、人間誰も経験したことがある妬みであり、いら立ってしまうぼくの多様な弱い気持ちに気付かせ、板書で整理し、「考え、議論する」中で、自分の強い気持ちを出すようにする。 ・仲間の意見と自分の意見を比較し、どのように感じたか、また今の自分の考えはどうか問う。 「人間理解での考え、議論する」 意図的指名 B、C→A 【補助発問①】 ○「ぼくを心配そうに見ている北山は、どんなことを考えていたのだろう。」と問うことで、北山がぼくに対して心配な気持ちをもっていることに気付くことができるようにする。 意図的指名 A→B、C ・「思わず」声を出すということは、これまでの北山に対する複雑な思いを胸に抱えた上で、ぼくの心にあった北山への思いを表出できたことに気付くことができるようにする。 意図的指名 B、C→A 【補助発問②】 ○「やめろよと言ったぼくも、他の人と同じように、北山に対して悪口を言っていたのではないか。」と問うことで、ぼく自身も北山のことをよく思っていない瞬間があり、友達としての関わり方として間違っていたことに気付き、よりよい人間関係について考えを深めることができるようにする。 ・価値に迫る児童の意見を取り上げ、仲間の意見と自分の意見を比較し、どのように感じたのか、今の自分の考えはどうかを問う。 「価値理解における考え、議論する」 意図的指名 A→B、C
見 つ め る	3 本時の価値に照らして、自分を見つめる。 ○信頼している友達について、これまでの自分はどうかであったかを見つめよう。 ・友達が習字コンクールで入選したときに、「〇〇さんすごいね。」と心から褒めたことがあります。そう言われた相手の表情はとても明るく、相手の頑張りを自分のことのように喜ぶことができてよかったと思います。 4 教師の話聞く。	【見つけタイム】 ・確認した価値を踏まえ、自分がどう友達と関わってきたのかを振り返り、かがやきカードに書くことにより、本時の価値に向き合わせるようにする。 意図的指名 A ・事例を紹介し、自己を見つめやすくしてから、一人一人が自己を見つめる。